

2022年3月期 第3四半期 決算補足説明資料

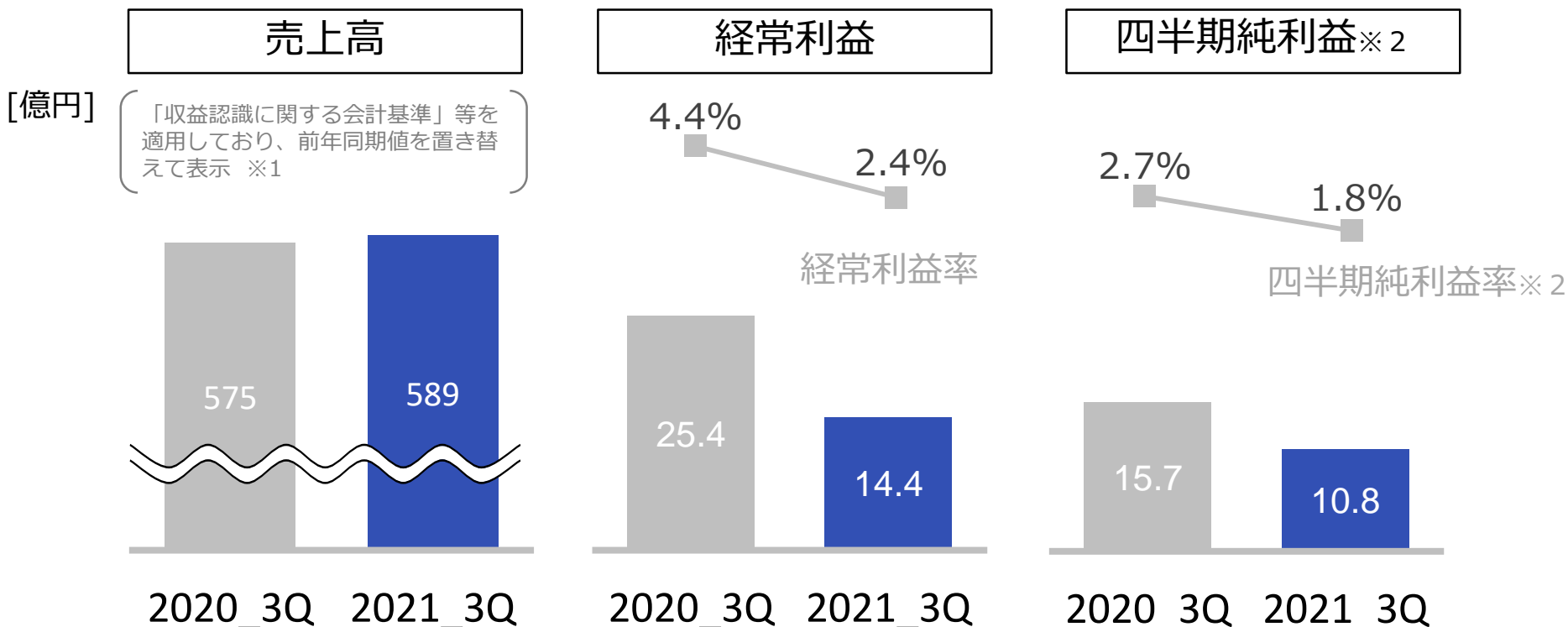
株式会社 **ヤギ**
(証券コード 7460)

2022年2月7日

将来見通しに関する注意事項：本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2022年3月期 第3四半期連結決算の概要

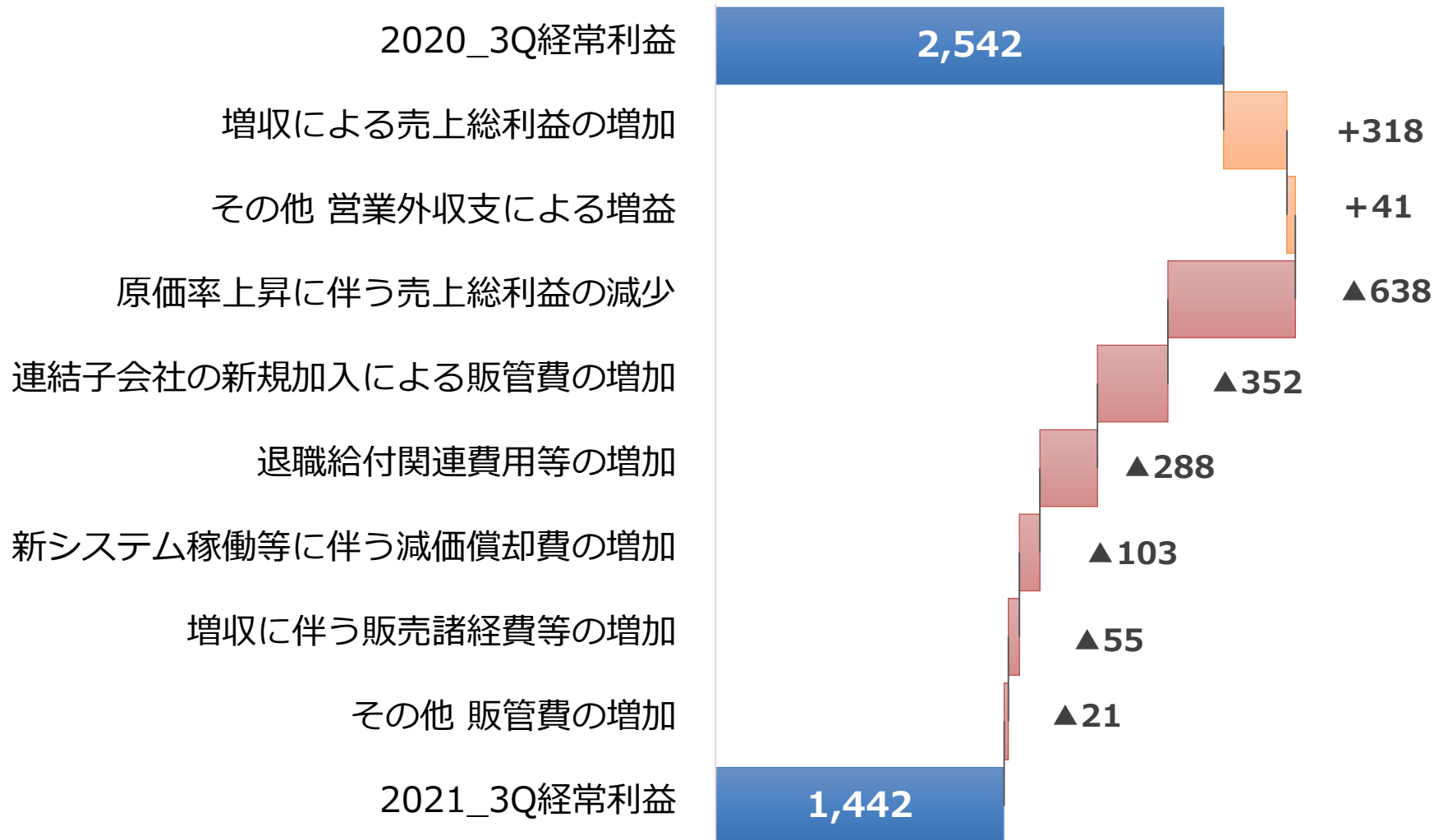
- 売上高589億円(前年同期比増減+2.4%)、経常利益14.4億(▲43.3%)、親会社株主に帰属する四半期純利益10.8億円(▲31.2%)
- 新型コロナウイルス感染症の拡大によろやく歯止めがかかり、E C・通販事業が堅調に推移したことにより増益となったが、天候不順の影響やオミクロン株による感染症の再拡大に対する警戒もあり店頭での売れ行きは苦戦を強いられ減益となった。



※1.「収益認識に関する会計基準」等を適用しており、決算短信では対前年同期増減率は記載しておりませんが、当資料では比較可能なように、前年同期の数値を同様の基準に置き換えております。 ※2.親会社株主に帰属する四半期純利益

経常利益 増減要因

[百万円]

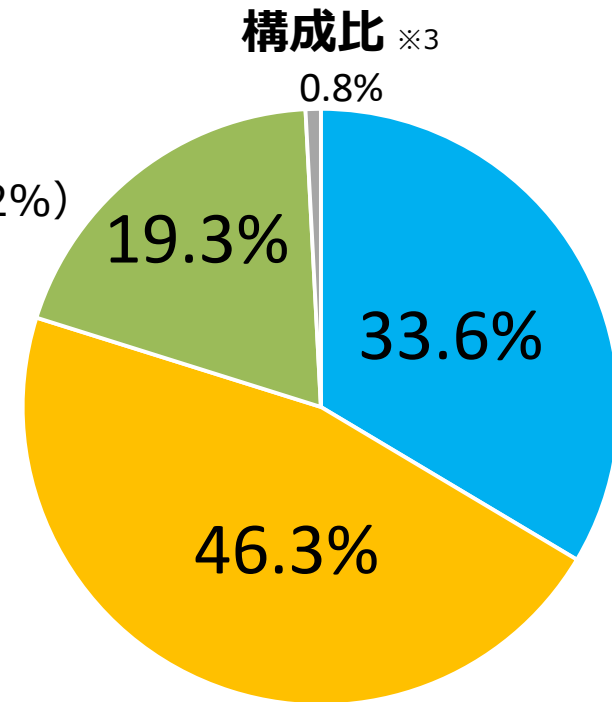
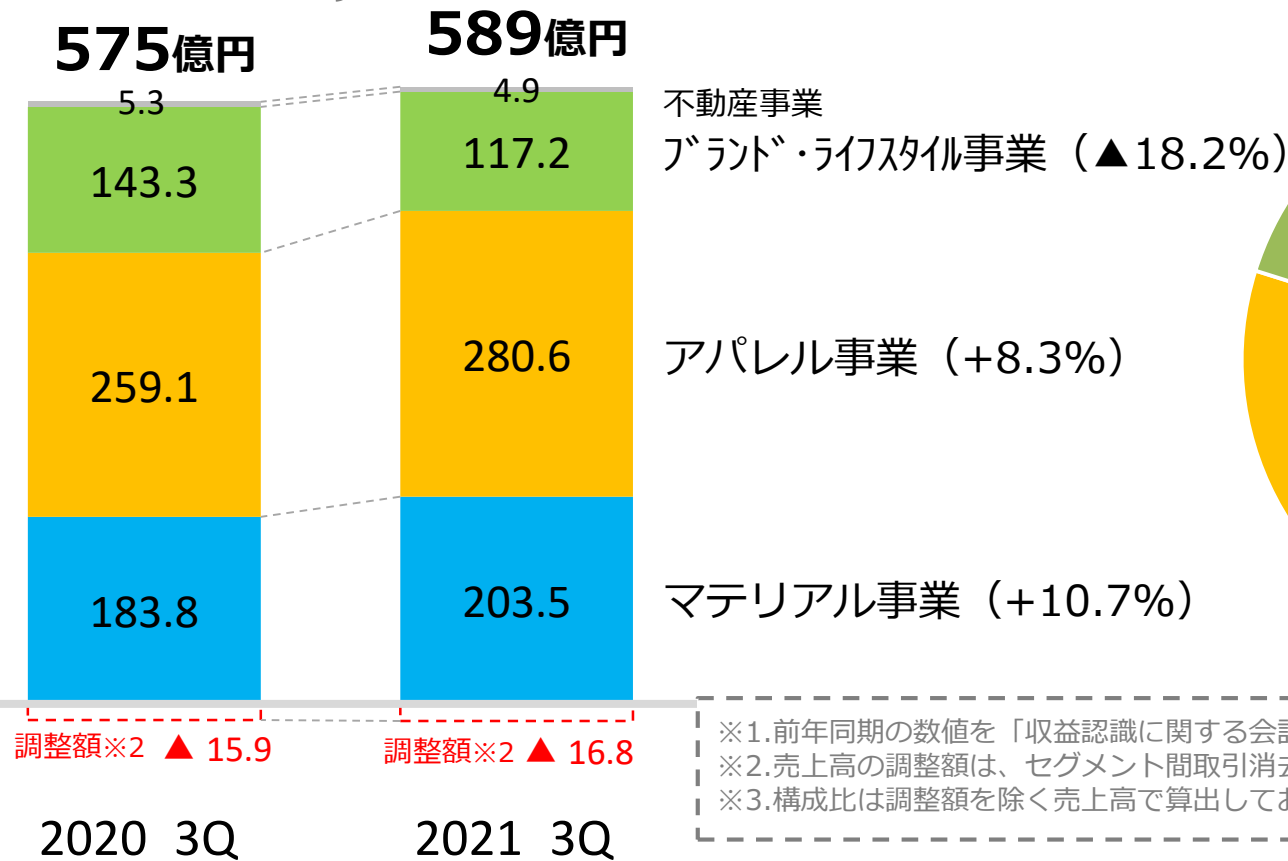


※前年同期の数値を「収益認識に関する会計基準」等の基準に置き換えて増減値を算出しております。

セグメント別 売上高

- 売上高 589億円、前年同期比増減+13億円 (+2.4%)
- 特に実店舗向けのブランド事業は、販売低迷等の影響を受け減収。一方で巣ごもり需要に呼応した通販向け商材等が健闘したことよりアパレル事業は増収
- マテリアル事業は、テキスタイル販売や、高付加価値原料等が堅調に推移し増収

「収益認識に関する会計基準」等を適用しており、前年同期値を置き替えて表示 ※1

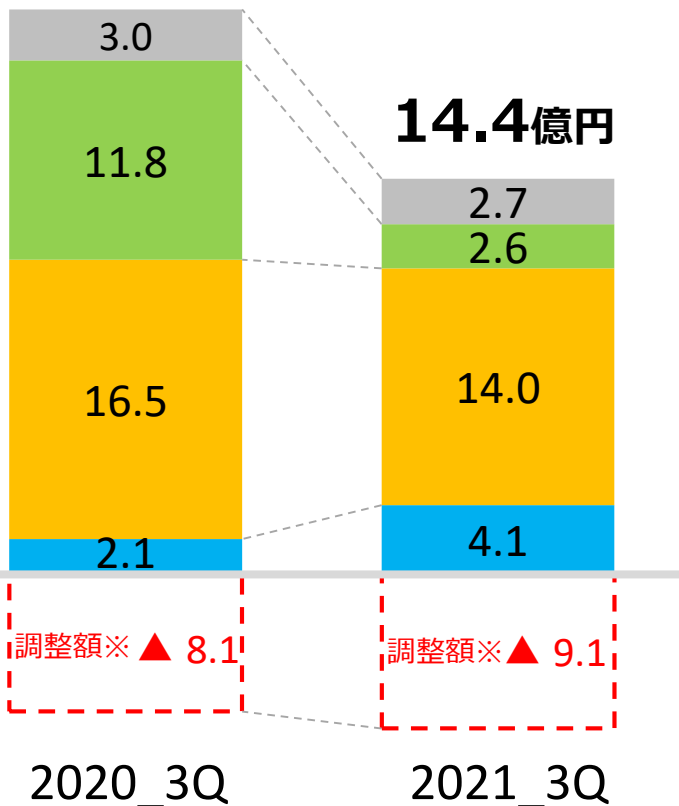


※1.前年同期の数値を「収益認識に関する会計基準」等の基準に置き換えております。
 ※2.売上高の調整額は、セグメント間取引消去等であります。
 ※3.構成比は調整額を除く売上高で算出しております。

セグメント別 経常利益

➤ 経常利益 14.4億円、前年同期比増減▲10.9億円（▲43.3%）

25.4億円



※セグメント利益または損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用及びセグメント間取引消去等が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

主な増減要因

■ マテリアル事業 4.1億円（前年同期比増減：+1.9億円）

・合成繊維販売は、他社との差別化を図った自社加工糸で商権が拡大し高付加価値原料販売が堅調に推移。オーガニック糸の取り扱い量も安定的に増加。天然繊維販売については綿糸相場の高騰に歯止めがかからず、各産地で商況が鈍化傾向であったが、テキスタイル販売は、綿相場の急騰と円安基調に輸送経費の上昇が加わり苦戦を強いられているが、比較的堅調に推移したことにより増益。

■ アパレル事業 14.0億円（▲2.5億円）

・一部で衣料への消費の復調傾向が見られたものの、全体としては新型コロナウイルス感染症や天候不順の影響により店頭での売れ行きは苦戦。通販向け商材、量販向け商材では主要販売先との取り組み深耕により堅調に推移したが、原料価格の上昇、円安基調、中国の電力不足に伴う計画停電やベトナムでのロックダウン等による生産効率の低下、原油高に伴う物流経費の上昇など、依然として続く生産コストの上昇により減益。

■ ブランド・ライフスタイル事業 2.6億円（▲9.1億円）

・百貨店やセレクトショップを中心にブランド品を扱う事業は、緊急事態宣言明けには来店者数の増加も見られたが、コロナ禍以前には程遠い状況にあり苦戦。生活資材や家庭用抗菌抗ウイルス商材を扱うライフスタイル事業ではコロナ関連商材において、ナノファイバーを使用した不織布の高性能マスクが市場で一定の評価を受け、比較的堅調に推移したが、一部の商材に関しては需要が大きく低下し苦戦を強いられたことにより減益。

■ 不動産事業 2.7億円（▲0.3億円）

バランスシート状況

- 現金及び預金は前期末比増減 + 14億円（事業環境に対応し手元流動性を向上）
- 自己資本は▲3億円（株主資本は▲0.5億円）
- 自己資本比率は49.6%（前期末比▲3.0pt）

[億円]

2021年3月期末

総資産 681億円

現預金 72	他負債
他流動資産	207
356	有利子負債
	111
たな卸資産	株主資本
83	
345	
固定資産	
168	
その他の包括利益累計額合計 13	
非支配株主持分 3	

純資産
362億円

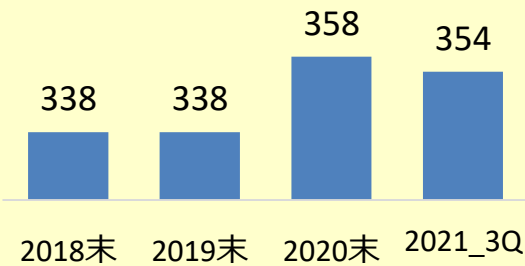
2022年3月期第3Q末

総資産 715億円

現預金 86	他負債
他流動資産	184
367	有利子負債
	171
たな卸資産	株主資本
92	
344	
固定資産	
169	
その他の包括利益累計額合計 10	
非支配株主持分 4	

純資産
359億円

自己資本



	2020末	2021_3Q末
自己資本比率	52.6%	49.6%

2022年3月期の見通し

■ 2022年3月期通期業績予想及び配当予想

➤ 業績予想

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益※	1株当たり当期純利益
770億円	10億円	13.5億円	6.5億円	78円07銭

※親会社株主に帰属する当期純利益

➤ 配当予想

第2四半期末	期末	合計	配当性向
	48円00銭	48円00銭	61.5%

※上記の業績予想及び配当予想は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

■ 方針

- **マテリアル事業**：原料相場の高騰や物流経費の増加など調達面で厳しい状況が続いていますが、そのような中でもオーガニックコットンやリサイクル素材などの環境配慮型商材の需要は増えており、当社も品種の拡充を図るなど展開を更に強化していきます。また、当社テキスタイルECサイト「Fably」をリニューアルし、全国各地のサプライヤーが参加できるオープンプラットフォームとしてPR施策を増やすなどして更なるサービスの拡充を行います。
- **アパレル事業**：世界的な原料高及び物流経費の高騰により、生産面で非常に厳しい局面が続いていますが、主要仕入先との連携を深めコストを抑えつつ、優良販売先との取り組み強化を図ります。また、デジタル技術を駆使しサプライチェーンの改革により、業界内外に向けて新たな価値を提供するプラットフォームの活用や、サステナブル商材の開発によりSDGsへの取り組みを更に進めていきます。
- **ブランド・ライフスタイル事業**：社会、顧客からの信頼と共感を高めるべく、社会的課題解決の一助を担えるブランドとして、経営戦略を実現するうえで重要な存在と認識し、進化を続けていきます。ライフスタイル事業においては、新たな生活様式に対応し、より環境に優しく、美と健康に寄り添った商品の開発を進めることで、更なる販売拡大を目指します。